

みんなの 活動だより

ねん がつ
2016年6月
だい ぎょう
第41号
はつしゅう ちほうぶかい
発行:MISHOP広報部会

国際交流ウォークラリー 2016 (5/15)



「国際交流ウォークラリー2016」が5月15日に開催されました。汗ばむ陽気の中、4歳から70代まで男女168人が17組に分かれ、井の頭公園駅前からMISHOPまで約5*のコースを完歩しました。

今回目立ったのは若者の参加。また外国籍市民も多く、ニュージーランド、ドイツ、タイなど10か国・地域から47人が出場しました。

当日初めて顔を合わせた日本人と外国籍市民が5~7人で1組となって、協力しながら井の頭公園、三鷹の森ジブリ美術館、山本有三記念館、天文・科学情報スペースなどのチェックポイントでクイズを解き、写真を撮り、ごみを拾いました。



歩行時間、クイズ正解率、ごみの量などの総合点で優勝したのは、ゼッケン1番「ライオンズ」。日本人3人とタイ、台湾出身の6人グループで、「優勝できて良かった。クイズを解く時、メンバーの出した意見を迷わず採用していった決断力が勝因です」と代表の高橋大賀さん(明星学園高校1年)。

大活躍したのが学生ボランティア。4月に井の頭キャンパスが開校した杏林大学をはじめ、立教女学院短期大学、法政大学、明星学園高校、アジア・アフリカ語学院などから50人を超える学生が受け付け、ルール説明、表彰式進行などを担いました。学生ボランティアのリーダー、井出湧一さん(国学院大学3年)は「仕事を割り振るのは大変でしたが、良い経験になりました。無事に終わってほっとしています」と話していました。

MAY 15 WALK RALLY

Seventeen teams of about 6 members each participated in our 5km walk from Inokashira-kōen Station to MISHOP. Participants ranging from ages 4 to 70 (mostly young) competed for points by answering quizzes and cleaning up trash along the way. This year, the event was organized by our student volunteer staff. Everyone took their fun very seriously when it came time to see who could take the best photograph of at the event. Afterward, over snacks and tea, fun and friendship was had by all—which was the best part.

INTERVIEW

原島新事務局長に聞く

4月から事務局長になられた原島法之さんに5月15日、インタビューしました。



問 ウォークラリーはいかがでしたか

答 予想以上にボランティア、ラリー参加者とも若い人が多かったと思いました。この若い力をフェスティバルなど今後の活動につなげられればいいなと思っています。

問 就任されて1カ月半。ご感想を

答 毎日、若者からリタイアされた方まで多数のボランティアが様々な活動と取り組んでいるのを目の当たりにしてそのパワーと熱心な日々の取組に驚いています。企画経営課に在籍中はMISHOPとかかわりがあり、会員数も把握していましたし、フェスティバルの手伝いをしたこともあります。けれど実際に接して、あらためてボランティアによって事業が成り立っているんだということを実感しました。短期間にこれだけ大勢の方々にお会いしたのは初めて。早く名前を覚えたいです。

問 自己紹介を

答 祖母の代に、代々住んでいた奥多摩・小河内村がダム建設で湖底に沈んだため、昭島市に移住し、私はそこで生まれました（三鷹市内にも同じ姓の方々がいらっしゃいますね）。三鷹市に就職して26年め目になります。

問 今後の抱負を

答 ボランティアの方々のやる気や熱意を、いかに事業に活かしていくかが課題。それと長く活動している会員の皆様と学生たちとにどう連携してもらい、発展させていくか、考えていく必要があると思います。

Interview with Mr. Harashima

Interview with Mr. Harashima, our new executive secretary.

Q It's been six weeks since you joined us. How you feel?

A Despite my previous professional relationship with MISHOP I only now realize how much of the day to day business is run by volunteers.

Q Please introduce yourself to our readers.

A I was born in Akishima City. My father's family moved there, when he was three years old, from Okutama's Ogochi Village, which later sunk to the bottom of a lake during the construction of Ogochi dam.

Q What are your future goals?

A To ensure the harmonious relationship between both our long-term volunteers and the newer volunteers.

Message from the Editors
編集室

原島事務局長にインタビューしたのは、ウォークラリー終了直後、熱気冷めやらないMISHOP事務所でした。お疲れのはずなのに、一つひとつ丁寧に答えてくださいました。会員の顔と名前を覚えるのが大変だとか。よろしく願いいたします。

From our post-rally interview, Mr. Harashima sends his regards to all his friends (whose names elude him at the moment.)